

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 8月 25日

氏名 (フリガナ)	平田 千尋 (ヒラタ チヒロ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	京都府立医科大学
学年	6年

6年生の夏休み。5年生から始まった病院実習を全てやりきり、マッチングの準備や面接を終え、卒業試験と国家試験に向けた勉強の只中です。試験に対する不安はもちろん、次に病院にいる自分は(どこの病院にマッチしているにしろ)研修医なのだと考えると、楽しみでありながら、やはり大きな不安がよぎります。自分の描く理想の医師像に向けて6年間、勉強に留学、ボランティアにアルバイトと一所懸命にやってきたけれど、自分は6年前から成長できているのでしょうか。

アメリカやイギリスの医学生と交流する機会があり、彼らの実習内容を見聞きしていると、自分の知識・技術との差に打ちのめされそうになります。彼らは、病歴聴取・身体診察に始まり、プレゼンテーション、評価に治療計画まで、徹底した訓練を受けています。一方で私は、実際の患者さんを診察した経験は数える程。これで、研修医として働けるのか。(それでも何とか働くより他に選択肢はないし、先輩たちも皆そうやってきたのですが。)

そんな時に、この医学英語研修プログラムの存在を知りました。ハワイという響きに惹かれたのはもちろん、今の自分と理想の研修医像とのギャップを少しでも埋められるのではないかと思います。どうしても参加しなかった。一週間の研修を終えた今、とてもわくわくした気持ちでいます。もちろん、たった一週間で英語力が伸びた訳ではないし、プレゼンテーションができるようになったとも思いません。しかし、沢山の出会いに刺激をもらい、チャレンジの価値を再認識できました。

今回の研修で最も楽しかったのはやはり、ハワイの医学生達の協力を得た、病歴聴取とプレゼンテーションの練習です。英語での問診もプレゼンも初めてなのに、最初に例を提示して貰えるのでもなく、'just try!' のスタイルを始めは不親切に感じました。しかし初めから完璧に出来ることなど、誰も期待されていないのです。まずはチャレンジしてみて、フィードバックを貰う。3日目には、英語でのプレゼンテーションに自信が持っていました。たった3日間だけれど、try&errorから学ぶことの多さに気が付きました。ハワイの学生たちも、ノリノリで患者さんの演技をしてくれ、楽しい時間でした。

この研修でのもう一つの収穫は、全国の医学部から参加していた、留学に興味のある仲間達と知り合えたことです。それぞれに留学の経験や予定があり、皆の話を聞いているだけで世界に視野が広がります。そして、ハワイで働かれている多くの日本人医師の先生方との出会い。先生方も、初めは不安だらけの世界に飛び込んできた人たちでした。挑戦しないと始まらないし、挑戦すれば道は見えてくると感じました。これから研修医になる、自分の実力に対する不安が消えたわけではありませんが、今はチャレンジによって得られる力への期待感が勝っています。この昂揚感を忘れないうちにまた、try&errorを続けていきたいです。これから半年間、国試の勉強に没頭する日々ですが、いつもチャレンジの心を忘れないでいたいと思います。

最後に、この研修をサポートして下さった全ての方々に感謝しています。本当に有難うございました。今のところ日本の医学部では経験できない、とても重要な学びを得られる内容だと思います。今後も多くの医学生が参加し続けられることを願っています。